

宮崎県社会教育委員連絡協議会 会報 [第10号]

平成23年1月発行

社会教育委員の皆様へ

事務局

新年、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願
いたします。

会員の皆様方には、県内の社会教育の振興のために様々な場
面において御尽力されておられます。この書面をもちまして、あ
らためてお礼申し上げます。

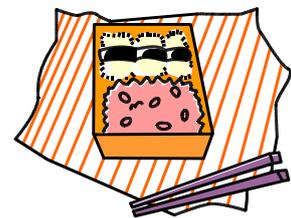


さて、平成21年3月に県社会教育委員の方々から「家庭や地域の教育力の向上を図
る具体的な方策について」のご提言を受けました。その中に「弁当の日」の設定があり
ます。「子ども自身が弁当づくりを体験することも意義のあることである。このことが
親子のふれあいの機会を増やすものとなり、地域として取り組めば、家庭教育の大きな
啓発活動ともなる。」と謳っています。

県といたしましては、昨年12月23日（木）に、「子どもがつくる弁当の日」の提
唱者である竹下和男 氏（香川県在住）を講師としてお招きし、家庭教育講演会を実施
いたしました。県社会教育委員研究大会でもご案内しましたが、学校関係者や保護者、
食育に興味のある方々など、約1200名の参加がありました。

竹下氏のお話に涙し、共感を覚えたところです。ここで参加者からの感想の一部を御
紹介させていただきます。

- 弁当を作ることが人間の生き様そのもの、家族のつながり、絆を深く強くしていく
ことに繋がっていることが理解できました。食育のねらい、人間として最も重要な部
分を教えてくださいました。もはや、「弁当の日」実践校がマイナーではなく、メジ
ャーになりつつあることを嬉しく思います。
- 食べるものをつくるのが心を育てることがよく分かりました。私には、軽
度発達障害の子どもがいますが、一緒に料理をするようになってから、全てのことが
少しずつですが良くなってきました。料理をして食べたり、食べさせたりすることの
力を実感していたところでしたので、地域全体で取り組むととても良いと思います。
- 今日の講演を聴いて、母親として心当たりのある話がたく
さん出てきました。「いい子に育ててほしい。」と思いながら
毎日子育てをしています。しかし、私の思っている「いい
子」は違っていたのかもしれないと思いました。子どもを変
える前に私が変わらなくては・・・がんばります。



社会教育委員の方々のご意見が、このような形で県の施策に反映されたところでござ
います。

社会教育委員の皆様方には、これからも所属される団体・機関等において御活躍をお
願いたしますとともに、社会教育行政に対しまして積極的に提言され、地域の生涯学
習・社会教育の一層の振興を図っていただきますよう御期待申し上げます。

各地区総会等の報告及び主な年間行事 (各地区代表より)



【宮崎地区】

宮崎地区会長 池田 昭

宮崎地区は、年1回研究テーマに基づいての研究会や討議を実施しているが、今回は「地域が元気になる社会教育のあり方」をスローガンに、さらに「学校、家庭、地域住民の連携と協力による子どもの育成」を主題に、去る11月26日(金)に開催した。

今回は、特に子どもたちに「自分でできることは自分で」、大人たちには、「地域に誇りと愛情を持ち、助け合い、支え合い、知恵を出し合い」の連携と協力のもとに宮崎市が研究発表、さらにそれに伴う協議を実施した。

この取組の中で「生きる力」を育てるために、委員(20名)さんを三つのグループ(学校と地域班～体験活動)、(学校と家庭班～PTA活動)、(地域と家庭班～地域活動)に分け、連携と協力を主とした事例を作成する内容で協議を行った。

まとめとして、これからの社会教育は、「生きる力や生きていく力」として「何事も事実から出発し、事実を確かめ、見直し、事実を検証していくことが教育活動」であり、「住民の幸せづくり」のために、三者の連携と協力により「自ら行動する人間の育成」が、地域づくり(人づくり)へ帰着していくものであることを確認したところである。

【県南地区】

県南地区会長 中島 淳祐

《研修視察》 12月17日(金) 8:30～16:30 西都市

1 西都原考古博物館見学

- ボランティアガイドによる館内見学
 - ・ 展示物の解説
 - ・ 出土品に見られる特徴と歴史的背景
 - ・ 古墳群に見られる特徴的な古墳の説明 等

2 西都市市民協働推進課訪問

- ・ 西都市協働の指針
- ・ 地域づくり協議会の取組
- ・ 地域づくりについての協議



西都原考古博物館では、ボランティアガイドの方に説明を依頼した結果、実物を見ながら展示物や古墳群について非常に分かり易い説明を聞くことができた。

西都市の市民協働推進課では、課長以下4名の方の対応により、西都市の地域づくりについて詳しい説明を聞くことができた。また、その後の協議では双方から大変活発な意見が出され、地域づくりについて考える良い機会となった。

【北諸県地区】

都城市社会教育委員 川島 博章

北諸県地区では、都城市及び三股町の社会教育委員が公民館運営審議会委員を兼ねているため、本年度は、11月23日に三股町文化会館で都北地区公民館実践研究セミナー

を宮崎県公民館連合会との共催事業として実施しました。NPO法人国際ビフレンダーズ宮崎自殺防止センター所長工藤智徳さんに「社会問題 自殺防止を考える」と題して講演していただきました。国内・県内の自殺者の数や抱えている問題、相談機関について、また県内で取り組まれている自殺防止対策の取り組み例等について、普段の言葉かけや話の聴き方の重要性について話をしていただきました。

【西諸県地区】

西諸県地区社会教育委員連絡協議会会長 西 誠

今回は、社会教育委員として小林市社会教育委員の会の取組状況について報告をいたします。

平成22年3月末に小林市と野尻町が合併して「新小林市」が誕生しました。合併前は、小林市14名、野尻町6名が社会教育委員として活動を進めておりました。しかし、今回の合併により11名の委員構成になりました。小林地区・須木地区・野尻地区から各世代、各機関、団体にわたって11名が選出されました。7月の第1回目の社会教育委員の会議では、委嘱状の交付とともに、社会教育活動の推進力として社会教育委員の意義と役割について研修をしました。改めて、社会教育委員の職務についての認識を高めることができました。同時に、今年度の研究テーマに「家庭と学校・地域が一体となった地域の教育環境づくり」を掲げて、取組を進めていくことも決定しました。9月には、市長部局・教育委員会・社会教育委員との意見交換会を開催しました。教育行政全般について説明を聞くとともに、社会教育の振興について意見交換ができたことは、私たち社会教育委員の今後の活動に大きな意義があったと考えております。これまでも、机上での議論だけでなく、社会教育課から学校や関係団体が開催する活動についての案内をいただき、実際に地域に出向き様々な社会教育の取組の現状を知り、会議に反映させております。「行動する社会教育委員」を合言葉に、社会教育の振興充実に11名の委員と粘り強い取組を進めていきたいと考えております。



【西都・児湯地区】

高鍋町社会教育委員 荻原 晴朗

社会教育法の一部改正に伴い、市町村の教育委員会は、青少年教育に関する特定の事項について関係団体などに対して、助言と指導を言い伝えることができるようになった。このことは、社会教育委員に実践的な活動が加えられたことになる。文部科学省の委託・補助事業である学校支援地域本部事業、放課後子ども教室推進事業、県単事業である子ども読書活動推進事業など学校教育と密接に関わる事業などにも力を活かし、それを持続させるために社会教育委員としての取組も必要になっている。

社会教育委員は、青少年教育に関する諸課題に積極的に取り組むとともに、社会の変化に敏感になり、地域の生涯学習の現状や当面する社会教育行政の課題に関しても十分な理解をもち、様々な課題に率先して取り組むことが求められているようである。

平成20年の中教審の答申に示されている「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方

策について、知の循環型社会の構築を目指して」、地域全体での子育てや学習の支え合い、地域の課題解決の助け合い、家庭や地域の教育力と学校教育等の効果的つながり合いなど、地域住民の共通の目標に向けて活発に社会教育委員として関わり合うことにより、地域の教育力が高まるものと考えられる。このようなことから、豊富な経験に基づく直接的な助言と指導のできる社会教育委員、指導者やボランティアをコーディネートできる社会教育委員、行政と地域住民をつなぐこのできる社会教育委員など役割は多様であり、社会教育委員の力量を活かした取組が求められるようである。さらに、そのための社会教育委員の活用の仕方や研修の在り方等にも見直しが考えられるようである。

今後は、社会教育が学校教育などと連携・協働しながら、教育活動を推進していく上で、社会教育委員の役割が重要になるのではなかろうか。一層の社会教育委員の強みを活かした取組が求められる。

【北部地区】

日向市社会教育委員長 林 留美子

日向市社会教育委員の取組について

社会教育委員は13名で、各公民館推薦7名、団体の代表6名です。前任の委員から、今後活動するにあたり、テーマを持って取り組んではという提案を受け、各委員から沢山の意見を出していただきました。その中から、子どもを取り巻く環境を整え、学校・家庭・地域の役割を問い直すとともに、お互いに協力支援



することが必要なのではないかという意見や、北部社会教育委員連絡協議会のテーマも踏まえ、「学校・家庭・地域との連携と協力のあり方について」を任期2年間の協議テーマとし活動することになりました。

協議の進め方としては「学校」「家庭」「地域」の3つの部会を編成し、各部長、副部長を選出。各部は部長を中心にワークショップやKJ法を用い、課題や方策について討議し、全部会で再び意見交換を行うという方法で協議を重ねてきました。その結果を、本年10月25日「学校・家庭・地域との連携と協力のあり方について」の意見具申として教育委員長に提出することができました。これに至るには、事務局の多大なバックアップと委員同士のチームワークの良さがあったからだと確信しています。

今後は、意見具申に盛り込まれた提言に沿って教育委員会や関係各機関が連携し、対策を講じていただくよう願っておりますとともに、社会教育委員として協力をしてまいりますと考えています。

【西臼杵地区】 子育て応援「ゆい高千穂」事業・がまだせ若竹会議委員 興梶勝宣

「第40回記念九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会」に参加して

さる10月14日～15日、佐賀市において、九州ブロック社会教育研究大会が開催され、今年度は、高千穂町の「子育て支援ボランティアグループ・ゆい高千穂」の取組を意見発表させていただきました。この事業は、もともと県教育委員会の地域で、「地域で子どもを育てる『地域教育システム創造実践モデル事業』として、平成18年度か

ら20年度まで取り組んできた事業を、現在は高千穂町教育委員会の後押しで独自に継続して行っております。事業の内容は、おもに「生活リズムの向上」「読み聞かせ活動」「長期休業中の学習支援」の3本柱で、地域住民がもっと子育てに参画し、地域全体で子どもたち見守っていくことを目指し日々活動を行っています。今回の研究大会では、当町の他、沖縄県読谷村の子育て支援事業の説明もありました（双方とも約30分の事業説明ののち、質疑応答、ディスカッションで約3時間後に終了）。会場には約150名の参加者でしたが、ほとんどが各市町村の社会教育委員、また、小中学校の先生の皆様で、私としましては初めてこの大会に参加したこともあり、どのような質問が飛び交うのかが関心のひとつでもありましたが、とにかく質問の多さにビックリ仰天!!、今思えば我ながらよくぞ切り抜けられたなあと自画自賛(?)している次第でもあります。質問は、3本柱すべてバランスよくあり、そこでまず私が感じたことは、市街地にはない「高千穂」というある意味地域的に隔離されたところ、そしてその地方の良さ（現実として親子2世代3世代の同居も多いことなど）を十分活用して成し得る子育て支援なのだということでした。それと相反して、都市部で起こっている数々の問題の深刻さも肌身で感じ、これは他人事ではなく、我々子育てや教育に携わる方々皆、前向きに意見交換をし、心を共有をしていくことが「これからの新しい子育て像」を作り上げることにもなるのではないかと思った次第です。今回の経験は、いち保護者として、また社会人としてもステップアップさせていただいた大舞台でありました。ご協力いただいた高千穂町教育委員会と北部教育事務所の職員の皆様に心から感謝をいたします。



平成22年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館 経営セミナー報告

(事務局)

平成22年12月9日(木)に、宮崎市佐土原総合文化センターにおいて県内の社会教育委員・公民館関係者約300名が一堂に会し開催されました。

開会行事においては、本大会の主催者として県教育長が挨拶を行い、本大会の意義を強調いたしました。また、県社会教育功労者表彰、県社会教育優良団体表彰、県地域文化功労者・団体表彰が行われました。本当におめでとうございます。

パネルディスカッションでは、「社会教育を通しての元気な地域づくり」～学校・家庭・地域や企業・市民団体等が連携した教育環境づくりを目指して～をテーマに、5名のパネリストをお迎えし、活発な意見交換がなされました。

パネリスト

- 鈴木佳子氏(有明小学校地域コーディネーター)、脇谷のりこ氏(フリーアナウンサー)、中村英樹氏(九州電力宮崎支店総務部副長)、春村光行氏(笛水地区公民館館長)、崎山実氏(県校長会長)

コーディネーター



- ・ 竹内一久（県生涯学習課主幹）

（主な意見）

- 学校・家庭・地域が連携した教育環境づくりは、単に連携するのではなく、しっかりとした目的をもって取り組むことが大切である。
- 今年から県教育委員会の事業として始まった「企業の力を教育に！『みやざきの教育』アシスト事業」が、企業としては多くの学校と連携できるようになり大変有り難い。
- 学校支援地域本部事業に取り組んでいるが、将来的に補助金等がなくても取り組めるシステムづくりをしていく必要がある。
- 今、一番大切なことは愛であり、「お陰様で」という気持ちだと思う。地域づくりは、永遠のテーマだと思うが、細くても長期間にわたって取り組んでいくことが大切である。
- 今、世の中はアナログからデジタル化の時代である。そのような流れをしっかりと捉えながら、学校・家庭・地域がつながっていくことが大切である。
- 地域課題を把握したら、すぐにアクションを起こすことが大切である。
- 子どもは地域の人とのふれあいを喜んでいる。そのふれあいを通して、思いやりや感謝の心、地域を愛する心を育てることが大切である。

その他、多くの貴重な御意見を伺うことができました。私たち社会教育に関わる者の心構えとして大切にしていきたいと思えます。

第40回記念九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会報告（事務局）

1 開催日 平成22年10月14日(木)～15日(金)

2 開催場所 佐賀県立生涯学習センター他

3 参加者 宮崎県 48名

4 内 容

1日目 分科会 第1分科会 テーマ 家庭教育・子育て支援

第2分科会 テーマ 地域教育力の充実

第3分科会 テーマ 社会教育委員の役割

第4分科会 テーマ 社会教育行政・公民館の役割

2日目 全体会 1 開会行事

2 記念シンポジウム

- テーマ 「社会教育、これまでの軌跡、これからの針路」
～社会教育委員の果たす役割～

958名の参加のもと開催されました。第1分科会「家庭教育・子育て支援」では、「子育て応援『ゆい高千穂』事業がまだせ若竹会議」委員の興柁勝宣さんが、「地域での子育てサークルの育成とネットワークづくりについて」の視点で事例発表をされました。約150名ほどの参加者でしたが、時間ぎりぎりまで熱心な討議が続き、もう少し時間がほしい状況でした。興柁さんの発表は堂々としたものであり、質問も多

数出され、それに対して丁寧に受け答えをされていました。

2日目は、全体会で記念シンポジウムが行われました。元本県会長の上條秀元氏からは、「社会教育を推進していく上では、引き算の発想ではなく、足し算の発想を持って取り組む必要がある。」と述べられました。また、佐賀県会長の正平辰男氏からは、「子どもの生きる力をしっかりと身に付けさせることが大切だ。そのための受入側の体制づくりをする必要がある。」というお話がありました。

その他として、理事会・運営委員会では、次年度以降の九州大会全国大会の順番が提示され、本県は、平成24年度に九州大会当番県となりました。

第52回全国社会教育研究大会 福島大会報告

(事務局)

1 開催日 平成22年10月28日(木)～29日(金)

2 開催場所 福島県郡山ユラックス熱海他

3 内 容

1日目 全体会 開会行事

基調講演 演題： 「未来設計システム思考技術で日本国民・日本国家の輝かしい未来を設計し再生復活を目指す」

講師： NPO法人ライフマネジメントセンター理事長
佐藤 安太 氏



シンポジウム テーマ： 「継承」と「創造」が循環する地域社会を作る社会教育振興のあり方

2日目 分科会 1 家庭教育支援 2 地域の教育力向上 3 生涯学習の振興
4 社会教育委員の役割 5 社会教育施設

約900名以上の参加のもと開催されました。郡山市は、近くに猪苗代湖、磐梯山があり、野口英世が生まれた土地でもあります。寒気が入り非常に寒く、磐梯山も初冠雪するような天候でした。

基調講演では、「だっこちゃん」「リカちゃん人形」「人生ゲーム」「チョコQ」などで有名なタカラトミー創業者佐藤安太氏が話をされました。佐藤氏は、タカラトミーを退社した後、NP法人ライフマネジメントセンターを設立し、その後山形大学大学院に再入学、86歳で工学博士号を取得された方です。演題は非常に難しいものでしたが、内容は、自己実現をするためには、どのようなことをすべきなのかということでした。特に、「1日のうちに何回も『ありがとうございます』と言ってみるのが大切である。」という言葉に共感するものがありました。

分科会の第2分科会「地域の教育力向上」では、社会教育委員が主体的に活動している様子が発表されました。その中で、やはりこれからの地域づくりには、社会教育関係団体との密接な連携、学校のリーダーシップなどが大事であるということでした。また、教育委員会の中の学校教育課と社会教育課の壁をなくして事業に取り組むことの大切さを強調されました。

～お知らせ～

- 今後の予定
 - ・ 平成23年度九州ブロック社会教育研究大会
平成23年11月10日（木）～11日（木）沖縄県那覇市
※ 第3部会「社会教育委員の役割」①地域づくりと社会教育委員の役割 の担当県となっております。自薦・他薦あれば、事務局まで御連絡ください。
 - ・ 平成23年度全国社会教育研究大会
平成23年 9月21日（水）～22日（木）京都府
 - ・ 平成24年九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会
平成24年度は、九州ブロック大会の**担当県**になります。これから様々なお願い事が出てくると考えています。この大会に向けて、社会教育委員の活動が一層活性化されることを期待しています。詳細につきましては今後、お知らせしていきます。
- 事務局への御意見、御要望等ありましたら下記まで御連絡ください。



事務局：宮崎県教育庁生涯学習課（担当書記：小嶋）
住 所：〒880-8502 宮崎市橘通東1丁目9番10号
TEL：0985-26-7245
FAX：0985-26-7342
E-mail：kojima-masafumi@pref.miyazaki.lg.jp

生涯学習、社会教育に関する情報は、県の生涯学習情報システム「みやざき学び応援ネット」でご覧いただけます。インターネットに、是非、アクセスしてください。

<http://sun.pref.miyazaki.lg.jp/>

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム